

2) シラバス

(1)在宅看護論

分野	看護の統合と実践 - 在宅看護論 -	対象学年	2
		時期	前期
授業科目	在宅看護概論 Introduction to Home Care Nursing	単位	1
		時間	30
		方法	講義
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	在宅看護の対象は、「在宅で療養する人とその家族」である。その人が生活してきた住み慣れた環境で生活するための活動を学ぶ。また、療養者の生活を支える法律・制度を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の意義を理解する。 2. 在宅看護の基盤となる理念と倫理的課題を理解する。 3. 在宅看護に関する指標を理解する。 4. 在宅看護と病棟看護の違いを理解する。 5. 社会資源の活用における看護師の役割を理解する。 6. 地域包括システムの概要を理解する。 7. 訪問看護の概略を理解する。 8. 介護保険制度成立の経緯を理解する。 9. 介護保険制度の概略を理解する。 10. 障害者総合支援法の概略を理解する。 11. ケアマネジメントの定義とプロセスを理解する。 12. 在宅ケアチームの意義と連携を理解する。 13. 家族看護の機能と役割を理解する。 14. 家族看護における看護師の役割を理解する。 		
評価方法	終講試験100点		
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 石田千絵他編 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 石田千絵他編 メディカ出版		
参考図書	「わかりやすい介護保険」パンフレット		
メッセージ	入院している患者は、本来は自宅や地域で生活します。その人が願う療養生活を支えるために。地域の中でどのような社会資源が活用できるか考えることとても大切です。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	在宅看護の意義	在宅看護の意義を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の意義 在宅看護とは 訪問看護の場 在宅看護の社会背景 在宅看護を学ぶ目的 2. 在宅看護の対象 在宅看護の対象 在宅看護の対象の特徴 	GW 講義	
2	在宅看護の倫理	在宅看護の基盤となる理念と倫理的課題を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の基盤となる理念 2. 療養者中心の医療 ・意思決定の尊重 3. 在宅看護の倫理的課題 	講義	

在宅看護論

3	在宅看護に関連する指標	在宅看護に関連する指標から在宅看護の必要性を理解する	1.在宅看護に関連する指標 2.在宅ケアのニーズが高まった理由	講義	在宅看護に関連する指標を「国民衛生の動向」等を使って調べる。
4	在宅看護と病棟看護	在宅看護と病棟看護を理解する	1.在宅看護と病棟看護 在宅看護の目的 在宅看護の特性 訪問看護利用者の特性	GW 講義	在宅看護と病棟看護の違いについて考える。
5	社会資源	社会資源の活用における看護師の役割を理解する	1.社会資源とは フォーマルな支援システム フォーマルな支援システム 在宅看護に関わる人的資源 在宅看護に関わる物的資源 2.社会資源活用における看護師の役割 3.訪問看護における社会資源活用 の実際	講義	事例をもとに社会資源の活用の実際を考える。
6	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概略を理解する	1.地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムオの定義 背景 2.地域包括ケアシステムの体制 地域包括支援センター 3.多職種の連携 地域連携クリニカルパス 4.看護師の役割	講義	
7	訪問看護	訪問看護の概略を理解する	1.訪問看護設置基準 2.訪問看護の歴史 家庭訪問 訪問指導 3.関係法規 老人保健法 医療保険 介護保険 難病 障害者総合支援法	講義	社会福祉概論で関係法規を履修するため、進捗を確認し、必要時資料を持参してもらうようにする ・介護保険は当該年度の一般向けパンフレットを、サブテキストとして活用する

8	介護保険	<p>1.介護保険制度成立の経緯を理解する</p> <p>2.介護保険制度の概略を理解する</p>	<p>1.介護保険制度の復習 制度の成り立ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口動態・衛生統計・世帯の変化等 ・政策の変化 <p>介護保険利用までの流れ</p> <p>介護保険制度の変遷</p> <p>2.介護支援専門員の役割</p> <p>資格取得の方法</p> <p>役割</p> <p>さまざまな職場での役割の実際</p> <p>3.地域包括支援センターの役割</p>	講義 GW	GW を行いそれぞれの職種や施設の活動の実際について身近な事例で考える
9		<p>制度の成り立ち</p> <p>施設の役割</p> <p>成員と役割</p> <p>関係職種との連携,活動の実際</p> <p>地域ケア会議</p>	<p>1.介護保険制度の復習 制度の成り立ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口動態・衛生統計・世帯の変化等 ・政策の変化 <p>介護保険利用までの流れ</p> <p>介護保険制度の変遷</p> <p>2.介護支援専門員の役割</p> <p>資格取得の方法</p> <p>役割</p> <p>さまざまな職場での役割の実際</p> <p>3.地域包括支援センターの役割</p> <p>制度の成り立ち</p> <p>施設の役割</p> <p>成員と役割</p> <p>関係職種との連携,活動の実際</p> <p>地域ケア会議</p>		
10	障害者総合支援法	<p>障害者総合支援法の概略を理解する</p>	<p>1.障害者総合支援法 制度の成り立ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口動態・衛生統計・世帯の変化等 ・政策の変化 <p>制度利用までの流れ</p> <p>障害者に関わる制度の変遷</p> <p>2.その他の制度</p> <p>難病患者への支援</p> <p>医療支援</p> <p>さまざまな手帳</p>	講義	
11	ケアマネジメント	<p>1.ケアマネジメントの定義とプロセスを理解する</p> <p>2.在宅ケアチームの意義と連携を理解する</p>	<p>1.ケアマネジメントの定義</p> <p>2.ケアマネジメントのプロセス</p> <p>アセスメントの枠組みの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護認定訪問調査票 ・MDS-HD ・訪問看護財団式 ・三団体式 ・社会福祉士会式 <p>介護サービス計画作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅サービス計画書 1,2 ・週間サービス計画表 ・居宅介護支援経過 ・サービス提供表・提供表別表 <p>訪問看護における記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護指示書 ・訪問看護報告書 ・ケアプランに関わる用紙 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス ・サービス担当者会議 	講義 GW	<ul style="list-style-type: none"> ・書類については実際の様式を用いる ・GW ではケアマネジメントを個人で展開する
12					

在宅看護論

13	家族看護	<p>1.家族看護に役割を述べられる 2.家族看護における看護師の役割を理解する</p>	<p>1.家族の機能と役割 世帯統計等から見る家族の形態の変化 現在の家族の看護・医療に関わる、問題 家族の機能 家族の理解のための理論 ・家族発達論 ・家族危機理論 ・家族システム理論</p>	講義 DVD GW	<p>・自分の家族史を振り返り、家族の危機とそれを乗り越えた経緯を個人ワークする</p>
14		<p>2.家族看護における看護師の役割を理解する</p>	<p>2.家族のセルフケア機能 指導場面における機能 3.家族看護での看護師の役割</p>		
15			終講試験		

分野	看護の統合と実践 - 在宅看護論 -	対象学年	2
		時期	前期～後期
授業科目	在宅看護実践論 Home Care Nursing Practice	単位	2
		時間	30
		方法	講義
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	在宅で療養する人と家族の健康上の問題と生活上の問題を理解し、在宅看護の機能と役割を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設から在宅に向けての看護の視点を理解する。 2. 在宅療養にむけての療養者とその家族の不安を理解する。 3. 退院に向けての支援と調整について理解する。 4. 在宅における様々な対象について理解する。(認知症療養者、長期臥床療養者、精神障害による療養者) 5. 在宅における様々な対象について理解する。(難病療養者、在宅療養児) 6. 在宅における様々な対象を理解する。(終末期の療養者) 7. 在宅におけるフィジカルアセスメントを理解する。 8. 在宅療養生活を理解する。 9. 在宅看護において大切な視点を理解する。 10. 在宅における問題解決方法の特徴を理解する。 11. 在宅看護における看護過程が展開する。 12. 在宅療養生活を支える法律を理解する。 13. 在宅看護における面接技術を理解する。 14. 在宅看護における面接技術の実際を体験する。 		
評価方法	終講試験 100点		
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 石田千絵他編 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 石田千絵他編 メディカ出版		
参考図書	「わかりやすい介護保険」パンフレット		
メッセージ	地域で生活する療養者を意識して、課題やグループワークに取り組んでください。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	在宅看護における問題解決技術	在宅看護における問題解決方法の特徴が理解できる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護における看護過程の特徴：場の違い、意思決定プロセス、家族の能力・介護力、社会資源の活用 2. アセスメントの視点 情報収集 アセスメント 計画立案 実施 評価 	Gw	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に事例を提示し、希望を取り、各自が計画を立案する課題を出す。 ・事例ごとにG分けをする ・事前に課題を評価する
2		考え方をを用いて看護過程が展開できる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアプランの立案 事例をもとにグループで計画を立案する 2. 家庭訪問・初回訪問 訪問時の留意点、マナー、訪問終了後の行動の理解 	講義 GW	<ul style="list-style-type: none"> ・個人課題を返却しGWを行う ・次回模擬訪問のロールプレイを行うため、訪問時の行動を確認する

3	在宅における 面接・訪問技術	在宅における面接・訪問における 技術が体験できる	1.模擬面接	演習	・2 時限続けて 設定する ・2 回目から2 ～ 3 週間後 に行ない、準備を する ・評価表を提示 し利用者・看護 者側に分かれ て模擬面接を 行う ・評価表をもと に説明しなが らまとめる
4			2.面接評価 評価の視点 マナー 説明方法・理解度の確認 療養者・家族の自律尊重 家族力・介護力 社会資源の活用 3.まとめ		
5	継続看護	病院から在宅に向けての看護の 視点を理解できる	1.継続看護 2.病院と在宅との継続看護	講義	
6	在宅療養にむ けての対象の 不安	在宅療養にむけての療養者とその 家族の不安を理解できる	1.在宅療養への不安 2.病棟看護師としての退院指導の 視点 3.退院に向けての指導	講義	
7	退院調整・退院 支援の実際	退院に向けての支援と調整の実際 を理解できる	1.退院支援とは 2.退院調整とは 3.退院調整看護師とその役割 4.退院支援・退院調整における連携	講義	退院調整 看護師
8	在宅看護にお ける様々な対 象	認知症療養者、長期臥床療養者の 看護および精神障害による療養者 について理解できる	1.在宅看護における様々な対象 認知症療養者の看護 長期臥床療養者の看護 精神障害による療養者	講義	
9		難病療養者の看護および在宅療養 児の看護を理解できる	1.在宅看護における様々な対象 難病療養者の看護 在宅療養児の看護	講義	
10		終末期の療養者の看護を理解でき る	1.在宅看護における様々な対象 終末期の療養者の看護	講義	
11	在宅における フィジカルア セスメント	在宅におけるフィジカルアセスメ ントを理解できる	在宅におけるフィジカルアセスメン ト バイタルサインを評価 腹部の聴診：腸蠕動音を評価 胸部の聴診：酸素の供給状態の 評価 「今から次回訪問まで」アセスメン ト	講義 GW	

在宅看護論

12	在宅療養生活を支える法律	在宅療養生活を支える法律を理解できる	在宅療養生活者を支える法律 (事例を通して)	講義	訪問看護師
13	在宅療養生活の理解	在宅療養生活を理解できる	在宅療養者の生活 事例から「生活の全体図」をまとめる	講義 GW	在宅看護論実習の記録を活用し「生活の全体図」を書く。生活のなかで気になることから原因や誘引となることを考える。老年看護学と共通の事例を用いて考える。
14		在宅療養生活における大切な視点を理解できる	1.在宅看護で大切にしたい視点 療養者の思い 人生観、生きがい等 介護者の思い、介護者の健康状態 日常生活の自立度 生活環境 疾患、障害の状況 利用している社会資源	講義 GW	
15			終講試験		

分野	看護の統合と実践 －在宅看護論－	対象学年	2
		時期	前期～後期
授業科目	在宅看護実践論Ⅱ Introduction to Home Care Nursing	単位	1
		時間	30
		方法	講義
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	生活の場で個々の健康障害や生活条件に合わせ、可能な限り自立できることを目指して日常生活の援助がされる。在宅における看護の援助技術を学び実践する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における食事と排泄の援助を理解する。 2. 在宅における移動の援助を理解する 3. 在宅における清潔の援助を理解する。 4. 在宅における感染予防を理解する。 5. 在宅における日常生活の援助の実際を体験する。 6. 在宅における日常生活の援助の実際を体験する。 7. 臥床療養者の洗髪の実際を体験する。 8. 在宅人工呼吸療法をしている療養者の援助を理解する 9. 在宅酸素療法と在宅中心静脈栄養法をしている療養者の援助を理解する。 10. 在宅経管栄養法在宅中心静脈栄養法をしている療養者の援助を理解する。 11. 腹膜透析をしている療養者の援助を理解する。 12. 在宅におけるターミナルケアを理解する。 13. 地域ケア体制を理解する。 14. 在宅における災害時の看護を理解する。 		
評価方法	終講試験 100点		
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 石田千絵他編 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 石田千絵他編 メディカ出版		
参考図書	「わかりやすい介護保険」パンフレット		
メッセージ	今まで学習した内容を活かして、在宅で行われている医療処置・日常生活の援助を学びます。病気や障害のある方々が生活の場でよりよく過ごすためにはどうしたらよいか考えましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	在宅における食事・排泄の援助	在宅における食事・排泄の援助を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅における食の援助 <ol style="list-style-type: none"> ①食のアセスメント ②食の援助の実際と技術 2.在宅における排泄の援助 <ol style="list-style-type: none"> ①排泄のアセスメント ②排泄の援助と技術 ③家族の指導 	講義	課題レポートの提出
2	在宅における移動の援助	在宅における移動の援助を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅における移動の援助 <ol style="list-style-type: none"> ①移動のアセスメント ②移動の援助と技術 ③家族や介護者への指導 	講義	課題レポートの提出
3	在宅における清潔の援助	在宅における清潔の援助を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅における清潔の援助 <ol style="list-style-type: none"> ①清潔のアセスメント ②清潔の援助と技術 ③家族の指導 	講義	課題レポートの提出

在宅看護論

4	在宅における感染予防	在宅における感染予防を理解できる	1.在宅における感染予防 ①在宅療養者と感染症 ②感染予防・早期発見 ③家族の指導	講義	
5	在宅における日常生活援助の実践①	在宅における日常生活援助を実施できる (リフトの操作、移動、更衣、杖使用の階段昇降・ケリーパッド作成)	1.在宅における日常生活援助の実践 ・リフトの操作・起立動作・風呂への移動 ・車椅子トイレへの移動・更衣介助 杖使用の階段昇降・ケリーパッド作成	演習	演習レポートの提出
6					
7	在宅における日常生活援助の実践②	臥床している療養者の洗髪を実施できる	1.在宅における日常生活援助の実践 臥床している療養者の洗髪	演習	演習レポートの提出
8	在宅人工呼吸療法をしている療養者の援助	在宅人工呼吸療法（HMV）している療養者の援助を理解できる	1.在宅人工呼吸療法（HMV） ①在宅人工呼吸療法とは ②在宅人工呼吸療法の指導と安全管理 ③療養者と家族への指導	講義 DVD	
9	在宅酸素療法をしている療養者の援助	在宅酸素療法（HOT）している療養者の援助を理解できる	1.在宅酸素療法（HOT） ①在宅酸素療法とは ②在宅酸素療法の指導と安全管理 ③療養者と家族への指導	講義	
10	在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法をして療養者の援助	在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法をして療養者の援助を理解できる	1.在宅経管栄養法をして療養者の援助 ①在宅経管栄養法とは ②経管栄養の方法 ③胃瘻栄養法とは ・家族への指導 ・トラブル・合併症の予防と対処 2.在宅中心静脈栄養法をして療養者の援助 ①在宅中心静脈栄養法とは ②在宅中心静脈栄養法に関する指導 ③日常生活上の指導	講義 DVD	
11	腹膜透析（CAPD）をしている療養者の援助	腹膜透析（CAPD）をしている療養者の援助を理解できる	1.腹膜透析（CAPD）をしている療養者の援助 ①腹膜透析（CAPD）とは ②腹膜透析（CAPD）の管理 ③日常生活上の指導	講義	
12	在宅におけるターミナルケア	在宅におけるターミナルケアを理解できる	1.在宅におけるターミナルケア ①在宅ターミナルケアの対象者 ②在宅ターミナルケアの条件 ③在宅ターミナルケアで提供される援助 ④医療チームづくり ⑤遺族へのケア グリーフケア	講義	

在宅看護論

13	地域ケア体制	地域ケア体制が理解できる	<p>1.在宅ケアにおける関係機関。関係職種 病院内、地域連携室、地域包括支援センター、 訪問看護</p> <p>2.主な在宅療養者への関わり</p> <p>①子どもの支援 ②障害・難病療養者の支援 ③精神疾患療養者の支援 ④がん末期患者の支援 ⑤高齢者のための支援</p> <p>3.地域支援のためのシステムとネットワーク</p> <p>4.地域包括ケアシステムと在宅ケア</p>	講義	
14	災害時の看護	在宅における災害時の看護が理解できる	<p>1.災害と在宅療養者の特徴</p> <p>2.災害各期における特徴と看護</p> <p>3.地域での取り組み</p> <p>4.看護職の役割</p>	講義	
15			終講試験		

(2)看護の統合と実践

分野	看護の統合と実践 - 看護の統合と実践 -	対象学年	2
		時期	後期
授業科目	看護の統合と実践 Integration and Nursing Practice	単位	1
		時間	30
		方法	講義
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	医療チームの一員としての、看護サービスを行うための基礎的知識である看護管理、および倫理と医療制度を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の仕組みを理解する。 2. 保健医療福祉における看護の役割と機能について理解する。 3. 看護をマネジメントできる基礎的知識を理解する。 4. 生命の尊重と尊厳から看護倫理について理解する。 		
評価方法	看護管理：筆記試験 50 点 倫理と看護制度：筆記試験とグループワーク後のレポートの評価を合わせて 50 点		
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践【1】医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【1】 看護学概論 医学書院		
参考図書			
メッセージ	看護とは何か、看護職とは何か、看護者の倫理綱領・患者の求める倫理的看護について、どのような内容があるか更に学びを深めてみよう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	看護におけるマネジメント	病院の組織、看護管理、看護におけるマネジメントについて理解する	<1～8 看護管理> 看護とマネジメント 1)病院の組織、看護管理とは 2)看護におけるマネジメントとは	講義	外部講師
2	看護ケアのマネジメントと看護職の機能	看護ケアのマネジメントと看護職の機能について理解する	看護ケアのマネジメントと看護職の機能 1)看護ケアのマネジメントと看護職 2)患者の権利の尊重、患者の権利、インフォームドコンセント	講義	外部講師
3	看護ケアのマネジメントと安全管理	医療安全および専門職とキャリア開発について理解する	看護ケアのマネジメント 1)医療安全について 2)専門職とキャリア開発	講義	外部講師
4	看護ケアのマネジメントとチーム医療	チーム医療について理解する	看護ケアのマネジメント 1)チーム医療について	講義	外部講師
5	看護サービスのマネジメントと看護管理	看護管理・患者管理および労働環境について理解する	看護サービスのマネジメント 1)看護管理・患者管理 2)労働環境について	講義	外部講師
6	看護サービスのマネジメントと看護政策	看護師とは、看護政策について理解する	看護サービスのマネジメント 1)看護師とは、看護政策	講義	外部講師
7	マネジメントに必要な知識と技術	リーダーシップについて理解する	マネジメントに必要な知識と技術 1)リーダーシップについて	講義	外部講師
8	リーダーシップとマネジメント	リーダーシップとマネジメントについて理解する	マネジメントに必要な知識と技術 2)リーダーシップとマネジメント	講義	外部講師

看護の統合と実践

9	倫理と看護師の倫理綱領	倫理と価値観、倫理を学ぶ目的と重要性、看護師の倫理綱領、患者の権利について理解する	<9～12 倫理と看護制度> 倫理とは 倫理と価値観、倫理を学ぶ目的と重要性 看護師の倫理綱領、患者の権利	講義	外部講師
10	職業倫理	職業倫理について理解する	職業倫理 個人情報保護法、倫理の原則、 臨床倫理の4分割法、 看護師の立場と倫理的ジレンマ	講義	外部講師
11	非倫理的事例検討	倫理的に問題がある事例について、倫理綱領と倫理の原則と照らして検討する	倫理的に問題がある事例の検討 グループワーク (倫理綱領と倫理の原則と照らして)	講義 GW	外部講師
12	看護を取り巻く諸制度	保健師助産師看護師法、看護師の 人材確保の促進に関する法律、 医療法について理解する	看護職の定義 保健師助産師看護師法、 看護師の人材確保の促進に関する法律、医療法	講義	外部講師
13	看護の制度（基礎教育、継続教育）	国民医療費の動向、労働関係 法規、看護における法的責任、 看護職の教育制度について理解 する	病床区分と基準 国民医療費の動向、労働関係法規 看護における法的責任、看護職の教育制度	講義	外部講師
14	医療保険制度	保険診療における支払いシステム、診療報酬、診療報酬における 看護サービスの評価について 理解する	医療保険制度 保険診療における支払いシステム 診療報酬、診療報酬における看護サービスの 評価	講義	外部講師
15			終講試験		

分野	看護の統合と実践 - 看護の統合と実践 -	対象学年	2
		時期	後期
授業科目	看護の統合と実践演習 Integration and practice Nursing Practice	単位	1
		時間	30
		方法	講義
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	成人看護学、老年看護学、精神看護学で学習した内容を統合し、看護の展開を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人にある事例をもとに看護診断が導き出せる。 2. 成人期にある人の特徴を考えて、成果を導くことができる。 3. 成人期にある人の特徴を考えて、介入を導くことができる。 4. 成人期にある人の看護を考えることができる。 5. 生活機能の枠組みに沿った情報整理ができる。 6. 生活機能の観点、統合的な視点からの考え方・アセスメントが理解できる。 7. 事例の強みを生かす、退院後の希望する生活につなげる援助計画立案ができる。 8. 生活のしにくさと自我機能を踏まえ情報整理とアセスメントが理解できる。 9. ストレングスや自己決定の力を踏まえセルフケアレベルを導くことができる。 10. セルフケア能力と優先度を考慮した援助計画の立案ができる。 		
評価方法	<p>課題内容および演習での態度を総合して評価する。</p> <p>成人看護学領域：34点、老年看護学領域 33点、精神看護学領域：33点</p>		
使用テキスト	<p><成人看護学> 看護過程にそった対症看護 学研 NANDA-I看護診断 定義と分類 北米看護診断協会 NEW 実践！看護診断を導く情報収集アセスメント 第4版 学研 系統看護学講座 専門 消化器 成人看護学【5】医学書院</p> <p><老年看護学> 看護過程にそった対症看護 学研 NANDA-I看護診断 定義と分類 北米看護診断協会 NEW 実践！看護診断を導く情報収集アセスメント 第4版 学研 ナーシンググラフィカ 高齢者の健康と障害 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践 メディカ出版</p> <p><精神看護学> 系統看護学講座 専門 精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門 精神看護学【2】精神看護の展開 医学書院 オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 第2版 ニューベルヒロカワ</p>		
参考図書	やさしく学ぶ看護理論 中範囲理論入門		
メッセージ	<p><成人看護学> 看護過程は看護をする上で必要な思考過程です。成人期ある人の特徴を捉えて具体的な看護を考えていきましょう。</p> <p><老年看護学> 生活機能の観点から捉えることの意味を考えながら、実践に結びつけられるようにしっかりと取り組みましょう。老年看護の基本となる考え方ですので、より具体的な計画となるよう柔軟な発想で考えていきましょう。</p> <p><精神看護学> 本人が持つセルフケアの力を考えていくことが大切です。精神看護学の授業内容を活かし取り組みましょう。わからないことは積極的に質問しましょう。</p>		

看護の統合と実践

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	・成人看護学 1.対象理解とは	<成人看護学> 対象理解とはなにかを考える	<1～5 看護過程演習：成人看護学領域> 肝硬変の対象事例 1)看護過程とは 2)対象理解とは 3) 成人看護 4)肝硬変の対象の看護 5)対症看護 6)慢性期看護	講義 GW	看護過程演習
2	2.各領域のアセスメント	NANDA 領域をもとにアセスメントする	NANDA 領域に基づくアセスメント 各領域では何をアセスメントするのか	講義 GW	看護過程演習
3	3.看護上の問題・看護診断	各領域でのアセスメントを統合し、対象理解し、看護診断を導きだす	各領域の関連 統合アセスメント どのような人かを考える 看護問題を考え、看護診断を導く 看護診断の導き出し方	講義 GW	看護過程演習
4	4.看護目標・成果	看護目標を考え、患者成果を導く過程を理解する	看護目標を考え、成果を導く 成果指標の表現・期間 対象の現在の状態の理解	講義 GW	看護過程演習
5	5.看護計画立案	看護計画立案を理解する	看護計画立案 成人期の特徴を踏まえた個別性を考える	講義 GW	看護過程演習
6	・老年看護学 1.対象理解	<老年看護学> 生活機能の枠組みに沿った情報整理の仕方を理解する	<6～10 看護過程演習：老年看護学領域> 1)生活機能の枠組みに沿った情報整理の仕方 2)生活機能の観点、統合的な視点からの考え方・アセスメント 1 回目	講義	看護過程演習
7	2.各領域のアセスメント	生活機能の観点、統合的な視点からの考え方・アセスメントを理解する	3)生活機能の観点、統合的な視点からの考え方・アセスメント 2 回目	講義 GW	看護過程演習
8	3.生活を支える社会資源	対象の生活を支える制度と社会資源について理解する	4)対象の生活を支える制度と社会資源活用	講義 GW	看護過程演習
9	4.看護上の問題(焦点)	関連図・統合アセスメントを理解する	5)関連図・統合アセスメント	講義 GW	看護過程演習
10	5.看護目標 看護計画立案	事例の強みを生かす、退院後の希望する生活につなげる看護目標、援助計画立案について理解する	6)事例の強みを生かす、退院後の希望する生活につなげる援助計画立案について	講義 GW	看護過程演習
11	・精神看護学 1.オレム - アンダーウッドモデルの看護過程とは	<精神看護学> 精神看護における対象理解とオレム - アンダーウッドモデルの看護過程の活用を理解する	<11～15 看護過程演習：精神看護学領域> 1) オレム - アンダーウッドモデルの看護過程 精神における対象理解 基本的条件付けの確認 普遍的セルフケア要素の確認 情報整理	講義 GW	看護過程演習
12	2.普遍的セルフケア要素のアセスメント	生活のしにくさと自我機能を踏まえたセルフケアの状態の捉え方とアセスメントを理解する	2)生活のしにくさと自我機能を踏まえたセルフケアの状態の捉え方とアセスメント アセスメント 全体関連図	講義 GW	看護過程演習

看護の統合と実践

13	3.セルフケアの状態とセルフケアレベル	ストレンクスや自己決定の力を踏まえたセルフケアレベルの判断を理解する	3)ストレンクスや自己決定の力を踏まえたセルフケアレベルの判断 アセスメントからセルフケアレベルを判断	講義 GW	看護過程 演習
14	4.看護目標	個別性と優先度を考慮した看護目標の立案を理解する	4)個別性と優先度を考慮した看護目標の立案 看護目標と成果	講義 GW	看護過程 演習
15	5.看護計画立案	個別性と優先度を考慮した援助計画の立案を理解する	5)個別性と優先度を考慮した援助計画の立案 看護計画立案 まとめ	講義 GW	看護過程 演習

看護の統合と実践

分野	看護の統合と実践 - 看護の統合と実践 -	対象学年	2
		時期	後期
授業科目	看護の統合と実践演習 Integration and practice Nursing Practice	単位	1
		時間	15
		方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	既習の知識を統合し、看護実践を看護組織・個別の対象に対するマネジメントについて学ぶ。老年看護学実習での対象に提供されるケアの経験を活かし、ケーススタディをまとめ、個別のマネジメントを理解する。自分の看護実践によってもたらされた患者の反応を「客観的」に捉え、看護実践の根拠や看護によってもたらされた患者の反応のもつ意味などについて、文献検討を通して、「科学的」に追及し、看護実践を整理し、わかりやすく「論述」する能力を養う。		
目標	1. 老年看護学実習の経験をもとに、看護組織のマネジメントを理解する。 2. ケーススタディをまとめることにより、個別のマネジメントを理解する。		
評価方法	課題レポート：看護組織におけるマネジメント（20点） ケーススタディレポート評価（80点）		
使用テキスト	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社		
参考図書			
メッセージ	組織の中で目標達成のために自分が、どのように行動するか、個人としてだけでなく、全体として看護のマネジメントを考えていくことが大切です。また、ケーススタディをはじめてまとめるにあたり、研究の目的・動機を大切に、実践した結果の意味づけをすることが大切です。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	看護組織におけるマネジメント <1>	看護組織におけるマネジメントの実際について述べられる	看護組織におけるマネジメントの実際 老年看護学実習での体験から、看護組織におけるマネジメントの実際についてグループで話し合う。	GW	老年看護学実習での体験を話し合いまとめる
2	看護組織におけるマネージメント <2>	看護組織におけるマネジメントの実際について述べられる	看護組織におけるマネジメントの実際 グループで話し合った内容をまとめ発表する。 その後、意見交換を行う。	GW 発表	グループ毎に発表し意見交換
3	個別のマネージメント ケーススタディの計画	1. ケーススタディの意義を理解し、目的を明確にする 2. ケーススタディの計画を作成する 3. 「はじめに」に動機、目的、テーマ設定を論理的に表現する	個別のマネジメントの実際 1) ケーススタディの意義と目的を明確にする。 ケーススタディの計画書を利用し、テーマ・動機・目的を明らかにする。研究のタイムスケジュールを考える。 2) はじめに 「はじめに」に動機、目的、テーマ設定を論理的に表現する。	講義 個人 ワーク	老年看護学実習 実集記録をもとに患者の全体像をまとめる
4	ケーススタディ <1> 患者紹介と看護の実際	1. 得られた情報の中から必要な情報を選択し、患者紹介を記述する 2. 看護の実際と経過を研究目的に沿って適切に記述する	2) ケーススタディ：患者紹介と看護の実際 看護の実際と経過を適切に記述する。	講義 個人 ワーク	

看護の統合と実践

5	ケーススタディ < 2 > 考察	得られた結果を解釈し、意味づけし文章化する	3) ケーススタディ：考察（結果の解釈） 実施結果の意味づけ・解釈、文献を活用し、実践したことを振り返る。	講義 個人ワーク	
6	ケーススタディ < 3 > 全体のまとめ	ケーススタディの目的・対象の特性、方法など簡潔に表される「表題」をつける	4) ケーススタディ：全体のまとめ ケーススタディの目的・対象の特性、方法など簡潔に表される「表題」をつける。	講義 個人ワーク	
7	ケーススタディ < 4 > 全体のまとめ	ケーススタディの構成に従って文章化したものの一貫性、論理性を見直し、追加・修正する	5) ケーススタディ：全体のまとめ ケーススタディの構成に従って文章化したものの一貫性、論理性を見直し、追加・修正する。	講義 個人ワーク	
8	ケーススタディ < 5 > まとめ	ケーススタディの構成に従い、文章化したものを見直し、追加・修正をする	6) まとめ ケーススタディの目的が達成されたか、ケーススタディの意義を振り返る。	講義 GW 個人ワーク	